NPO 法人　長崎県子ども劇場連絡会 NEWS　LETTER

2020 年 12 月 15 日

第 19 号

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

すくらんぶる

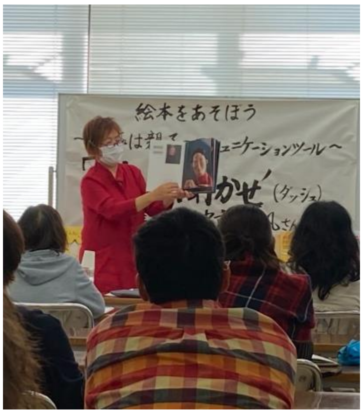
最情報報

12.14～15
「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座
あそびの中に権利あり
12.21
劇場代表者会議
21.1.19
理事会
1.21～24
「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座
劇づくりワークショップ
2.18
理事会
2.22
劇場代表者会
2.25
祭典事務局会議
3.16
理事会

絵本をあそぼう～絵本は親子のコミュニケーションツール～

「読み聞かせ´（ダッシュ）」　　講師　中市真帆さん

2020 年 11 月 23 日(月･祝)西諫早公民館第 2 講座室



講師の中市真帆さんは、絵本が大好きで“絵本をあそぶ”ことを通して子どもたちの育ちを考える様々な活動をされている。東京の町田市在住の中市さんは、同じ町で起こった若い母親が双子のひとりの子どもを手にかけてしまうという衝撃的な事件を知り、こんなに近くにまだ出会えていない親の存在があった、自分のやれることをやっていこうと新たな思いになったそうだ。子ども時代が幸せだったなあと思える環境は大人の役割、子どもの頃に絵本にたくさん触れた子は、物事を言葉にしたり、説明したり、お話をするのが上手になる。中市さんご自身はこぶとりじいさんなどの昔話をおじいちゃんから語り聞かせしてもらっていたそうで、大好きなお話を繰り返し聞いていたその楽しい記憶が今の活動につながっているのだと感じた。忙しいお母さんに本を読む時間を必ずつくってくださいと言っているわけではなく、指示や指導の声ではなくお母さんの素敵な声で対話する時間を大切にしてほしいと話された。

絵本作家の方の中には、どうぞたくさん絵本を使ってあそんでくださいとおっしゃる方も多いそうだ。読み手が工夫しあそび心を広げることで、どんどん子どもたちと一緒に楽しむことができる。絵本をめくる時、期待がふくらみ、次にでてくるものを想像しながら、心と心のやりとりができることが素敵だなと感じた。

絵本には、小さい子どもたちだけではなく、なぜだろう？どうしてだろう？と疑問が残るものもあり子どもの成長に添って楽しめる。絵本は経験できないことを擬似体験できるという魅力もあり、さらにワークショップで役を演じてみると相手の気持ちを感じることもできる。身近で誰にでも手に取ることができる絵本は、子どもたちの発達にあったものを選ぶことで、長くつきあえるものだと実感した。参加者は、おはなし会スタッフ、保育士、支援センタースタッフ、子ども劇場の会員など３５名。日頃絵本の読み聞かせをしている方も多く、講演後に実践的な質問もありとても貴重な講演会だった。

子どもゆめ基金助成活動

「とびだせ！絵本」

講師　中市真帆さん

2020 年 11 月 22日～25 日

「とびだせ！絵本」は、０才～３才の乳幼児親子を対象に長崎市、諫早市、島原市、佐世保市の４カ所で開催した。折り紙を使ったり、歌を歌ったり、身体を動かしたり、絵本の世界にあそびを足していくことで、より絵本に興味がわき、魅力が再発見できる楽しいワークショップだった。子どもが夢中になれる時間の大切さ、そのためには大人の事情の心配をさせないことなど、親に向けて読む本、上の子どもの頑張っている気持ちを知ることができる本、わんぱくでいたずらっ子の本、違っていても最後には自信をもって歩き出すトラの本など、あたたかくて心を動かすたくさんの絵本との出会いがあった。なにより、目の前にいる子どもたちの表情や動きを受けとめながら、読み聞かせを楽しんでいる中市さんの姿が日頃忙しい親たちにとってホッとするひとときであり、また子どもとの関わりを振り返りながら、ゆったりとした時間を過ごすことができた。

舞台コーディネイト事業

祭典の無い夏・・・　1本の電話からつながった学童クラブ公演

新型コロナウイルス感染拡大を受けてさまざまな催しが中止を余儀なくされ、毎年７月に県内約５０ヶ所で子どもと舞台の出会いをつないでいた「長崎県子ども舞台芸術祭典」も取り止めとなりました。

祭典のない夏。舞台を食い入るように観る子どもたちの真剣なまなざしや笑顔に出会えないさみしさを感じていたころ、市内の学童クラブより、「大きな会場に集まって合同で観ることはできないけど、各クラブ単位で観られるような作品はないですか？　できれば県内のアーティストで・・・」と問合せが入りました。

長崎市在住のパントマイマー・村田美穂さんは、「無理のない料金で気軽にパントマイムの世界に触れてほしい、一人でも多くの人と出会いたい」と、これまでに３，１０９回（２０２０年３月１日現在）、全国各地での公演を重ねています。子どもたちの、好奇心にキラキラ輝く瞳、集中力、想像力に驚き、魅せられ続けているという村田さん。その地元アーティストの村田美穂さんを、たくさんの学童クラブにつなぐことができとてもうれしかったです。

村田さんご自身、２月末の公演を最後にそれ以降の公演はすべてキャンセルになっていたため、急きょ決まった公演をとても喜んで下さいました。「どこにも行けないし、夏休みに子どもたちに何か出会わせてあげたいと困っていたので本当にありがたかった。」と学童の先生方。そしてなんといっても、子どもたちがパントマイムを楽しむ姿がとても印象的でした。

８月３～２９日の間で８学童クラブが実施。冬休みも４公演が決まっています。

これからの舞台コーディネイト事業

●「MIHOの不思議劇場」村田美穂
　12/25、12/28、1/5、1/7

●「さんまいのおふだ」人形芝居燕屋
　2/2、2/3、2/4、2/5、2/6、2/8、2/9

●「たっちゃんの紙芝居ライブ」マーガレット一家
　2/26、2/27

「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座

①子どもの響関者としての在り方を学ぶ　　講師：北島尚志さん

９月11日(金)10:30～12:30　たらみ図書館海のホール

②あそびの中に、権利あり！～ちがうっておもしろい～

９月11日(金)19:00～21:00　させぼ市民活動交流プラザ
９月12日(土)10:30～12:30　たらみ図書館海のホール

県内の子ども劇場の学習交流会である『子ども活動部会』では、各子ども劇場の活動報告をしていく中で、どのように子どもの声を拾えばいいのか、大きな声だけではなく言葉にはっきり表現できない子どもの言葉をキャッチするにはどうしたらいいのだろうか、子どもの主体的な活動を保障していこうと言いながら大人主導の活動になってはいないだろうか、そのような悩みや疑問が話された。課題や問題を解決していくためには、学習を重ねていくことが必要であるという結論に達して企画したのがこの事業である。

北島尚志さんの話は、具体的な子どもの様子なども交えてとても分かりやすく、子どもたちとの日常の関りを具体的にイメージすることができた。子どもたちの発達は順番である。子どもたちがその時に感じられる関わりや学びを大人が奪ってはいけない。教えてと言われても教えることができないのが感性。教えられないからたくさんの体験が必要なのだ。小さな時から共感をたっぷり浴びていないと人に対して共感が育たない。子どもに関わることで大人の心も躍動する。遊び心のやりとりや興味、関心を持つことで響き合う関係になる。大人は社会の中で勝負や善悪が心の底までしみついている。決まった像を打破する。あそびにはリスクが伴う。響関者は起きたことを受け入れる。子どもが伝えたい人とは、むだなことを面白がる子ども心を持つ人。子ども達の言葉の先にあることを考える。響関者の関りが、子どもが分からないけどおもしろい、分からないけど考えていこうと思うことにつながる。

「あそびの中に権利あり！」は中高生、青年対象のワークショップ。コロナ禍の中、広い会場で密をさけて久しぶりに集い、笑い、あそんだ。「サバイバルじゃんけん」に始まり「イス取りゲーム」などたくさんあそんだ後、最後はグループでつくる「人間写真」。ゲームは決まったルールがあるが、あそびは固定していない。だから揺れ動くし変わっていく。そうしたい、それでいいかも、そうしよう、合意のもとであそぶ。１人ひとりが大事にされている。

ワークショップの間に「権利」について話されることで、より深く理解することができた。

大人も参加したいとの声があがり１２月，１月の事業（詳しくはＰ４）につながった。

わたしの『観る、観るとき、観れば』

VOL.４

子ども劇場は様々な生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。今回のリレートークは、壱岐子ども劇場事務局長の武原由里子さん。子ども劇場の運営に関わる人たちにとって、家族と共に観ることや作品との出会いを楽しむのはもちろんのこと、地域の大人たちが力を合わせて仕事や役割を担い、様々な作品を地域の子どもたちに届け、公演を無事に終えて、作品を観た子どもたちの反応に興味を持って、また新たな世界への広がりや繋がりをつくるなど、仲間と喜びを分かち合えるのも大きな楽しみです。

離島に住んでいても、子どもにこそ本物の舞台芸術を！

「お母さん、まだ子ども劇場やってる？何の劇を観た？」壱岐を離れて５年経つ次男（会員）は、よく気にしてくれます。壱岐に来て３０年。今も島の子ども達に生の舞台を届けるため、仲間と共に楽しく活動しています。（家族からは道楽と言われていますが…）

これまで親子で鑑賞した中で一番心に残っているのが２５周年記念例会、デンマークのオペラ人形劇「火打ち箱」です。アンデルセン生誕２００年記念公演を壱岐で開催。ふしぎな舞台セットの前でデンマーク語の歌詞と音楽に合わせた物語は、赤ちゃんも最後まで見入っていました。日本とは違い人形や舞台美術をそれぞれのプロが分業し製作し、独創的な芸術作品で、言葉が分からなくても、本物は赤ちゃんにも伝わるものだと感じました。「太っちょ子馬」で翌年も壱岐に来て下さったアンダーグランド音楽劇団ご夫妻宅を訪問し、煙草を吸う「赤ずきんちゃん」を家族４人で鑑賞できたことは一生の宝物です。デンマーク政府への報告書に、壱岐の子ども達の写真が使われているのも見せてもらいました。デンマークは国費で文化活動ができ、大人も子どもも文化芸術を楽しむ時間が当たり前に保障されていて、とても豊かなメルヘンの国だと感じました。

次に、３０周年記念例会人形劇団プークの「エルマーのぼうけん」で、原作を知らない人はいないという人気の作品です。当時の会員数では年間の例会費をこの１本に使うほどの大型作品でしたが、若い親子と一緒に観ることができ、会員増となりました。ラストにエルマーが飛んだときは、会員の親子と劇団さんが一体となり、ホール全体に感動の渦が起こりました。原作とは違う展開に「いろんなエルマーがあっていいんだね。」「そうだね～。」と、語り合う親子の姿もありました。

３つ目は、二次離島の三島の子ども達にも生の舞台芸術を届けたいと、子ども舞台芸術祭典ＩＮ三島を実施したことです。以前に大赤字を抱えてしまい、劇場の予算だけではできないので、壱岐市や民間の助成金を活用しました。島のお年寄りや壱岐本島からも参加したマーガレット一家の「たっちゃんの紙芝居」（原島・長島）は「閉校して寂しくなったので、とても有難かった。」と参加された公民館長さんからお礼の言葉も頂きました。人形劇団クラルテの「カマキリと月」（三島小）では、児童４人と園児１人でしたが、初めての人形劇に食い入るように見入っている表情が印象的でした。学校公演でしか舞台に出会えない子ども達もいます。最初に出会った作品が大きく左右すると言っても過言ではありません。子どもにこそ、本物の舞台を届けることが大人の役目だと思います。子ども達の笑顔のプレゼントをもらい、仲間とともに楽しみながら続けていきたいと思います。

（武原由里子／壱岐子ども劇場）

子ども劇場　舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名		場所	主催
やもじろうとはりきち（くわえ・ぱぺっとステージ）	２月５日(金)19:00 開演	諫早文化会館展示室	諫早子ども劇場
	２月６日(土)15:00 開演	長崎県美術館ホール	ながさき子ども劇場
	２月７日(日)11:00 開演	アルカスSASEBO	佐世保子ども劇場
	２月８日(月)19:00 開演	波佐見町総合文化会館小ホール	はさみ子ども劇場
わたしとわたし、ぼくとぼく（劇団うりんこ）	２月 28 日(日)18:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場 諫早子ども劇場
どんどこももんちゃん／カミナリカレー（人形劇団むすび座）	５月 15 日(土)15:00 開演	長崎県美術館ホール(予定)	ながさき子ども劇場
たっちゃんの紙芝居＋（プラス）（マーガレット一家）	５月 20 日(木)19:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	５月 23 日(日)14:00 開演	芦辺町クオリティーライフセンターつばさ	壱岐子ども劇場
らくだ（はぐはぐ☆カンパニー）	５月 21 日(金)19:00 開演	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	５月 30 日(日)18:00 開演	アルカスSASEBO	佐世保子ども劇場

NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会
〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場
TEL: 0956-85-4273

Web サイト
http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/

発行
NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

(公財)県民ボランティア振興基金支援事業
「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座①

◆ あそびの中に、権利あり

講師:北島尚志

12 月 14 日(月)19:00～21:00
諫早市中央公民館
12 月 15 日(火)9:45～11:45
長崎ブリックホールリハーサル室
12 月 15 日(火)18:30～20:30
山澄地区公民館会議室
参加費1,000 円

対象：大人
心を開放し、遊び心を刺激しながら、子どもの権利を学び、その声をキャッチできる大人になるための講座です。

「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座③は、2～3月に県内3ヶ所で子育て中の親を対象に、日常の光景から子どもの権利を学ぶ講座を開催します。

(公財)県民ボランティア振興基金支援事業
「子どもの声をひろう」ファシリテーター養成講座②

劇づくりワークショップ

講師:北島尚志

2021 年
1 月 22 日(金)②18:30～20:30
山澄地区公民館講堂
1 月 23 日(土)①13:30～15:00
②15:30～17:30
長崎市民会館7F体育室
1 月 24 日(日)①10:30～12:00
②13:00～15:00
諫早市中央公民館
参加費 500 円

対象:子ども
①小学 1 年生～中学生（各会場 40 名）
②小学 4 年生～中学生（各会場 20 名）
子どもの活動を支える大人、青年
（各会場 10 名）

子ども達が話し合いをしながら劇をつくります。大人はスタッフとして関わりファシリテーターの役割をします。

1 月 21 日(木)

北島尚志さんと出会ったことのない壱岐では、子どもたちと大人が遊びながら「子どもの権利」について考えるきっかけのワークショップを開催します。（助成金外事業）

★編集後記★

1967 年に刊行された絵本「いないいないばあ」（童心社）が 11 月 24 日付の重版で 339 刷、701 万部になったそうだ。私が子どもの為に初めて買った本がこの「いないいないばあ」だった。ページをめくるたびに顔を隠したネコやクマが次のページではあと顔を出す。そして最後は私も「いないいないばあ」子どもも真似をして「いないいないばあ」としばらく遊びに興じるのだった。私の膝の上で不安そうにのぞきこんだり、身体をゆすってきゃっきゃっと喜んだりする子どもの様子に、幸せな気持ちになったものだ。「とびだせ！絵本」の中市真帆さんの、自由で子ども主体の目線の読み聞かせはみんな楽しんだが、絵本は淡々と読むものだと思っていたとか、以前に読み聞かせに感情を入れてはいけないと教わった、などという人が意外に多くて驚いた。読み手の解釈や感情が表面に出すぎてしまうと、聞き手の感じ方を尊重することにならないのが理由らしい。一理はあると思うが、本の種類や、子どもの年齢も関係するのではとか、そうじゃなくてもいいんじゃないかとか、一度は人の言葉をそのまま飲み込まないで、自分の頭で考えてほしいと思う。そういった人の言葉はアドバイスであって強制ではない。その結果、誰が何と言おうと自分は好きなように読むぞとか、淡々と読もうとか自分で決めればいいのである。中市さんが読んでくれた絵本「天女銭湯」、子どもが銭湯で天女だと名乗るおばあさんに出会いいっぱい遊んでお礼にヤクルトをあげる。水風呂で遊びすぎてその晩風邪をひくが天女が現れて…私も天女になって銭湯で子どもとあそびたいな～と思ってしまった。淡々とは読めない内容だ。　　（N）

団体概要　子どもの豊かな成長と地域の子ども文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 5 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。「長崎県子ども舞台芸術祭典」、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

私たちは子どもの文化を応援します。

立石産婦人科医院
諫早市栄町 7-6
TEL0957-22-0292

ダイハツタチバナ
有限会社 林田車体工業
〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318　FAX 0957-24-1378

〒854-0072 諫早市永昌町43-6
医療法人 マツオ内科クリニック
TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

ホテル ウイング・ポート長崎

佐世保の中心、ビジネス&観光に。
セントラルホテル佐世保
〒857-0872 佐世保市上京町3番2号
Phone 0956-25-0001
0120—69—0511

白山陶器株式会社
〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251　FAX. 0956-85-6630